

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 29 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会		主 査 名：濱田幸雄 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：岩田利枝 主 査 名：古賀貴士
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居住者の集合住宅における要求性能水準の調査</li> <li>・ 暗騒音を考慮した室間音圧レベル差、床衝撃音レベルの要求性能の提案</li> <li>・ 鉄道騒音の測定及び評価法の提案</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査：濱田幸雄 (日本大学) 幹事：岩本毅 (三井住友建設) 委員：大内孝子 (建設環境研究所), 大脇雅直 (熊谷組), 古賀貴士 (鹿島建設), 須賀昌昭 (住宅リフォーム・紛争処理支援センター), 坪井政義 (大林組), 浜田由記子 (大成建設), 羽染武則 (東急建設), 藤本一壽 (九州大学名誉教授), 向井達郎 (OTO技術研究所), 山下恭弘		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2018 年度予算	40,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. なし
講習会	1. なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. なし
大会研究集会	1. なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 鉄道騒音の測定及び評価法の提案 測定の簡便性, 再現性の高さなどから各種測定量として用いられている時間重み特性 S による最大 A 特性音圧レベルから騒音暴露レベルが精度よく算出され, 騒音暴露レベルから等価騒音レベルが予測できる見通しを得ることができた。さらに, 基礎的な聴感実験を実施した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	特になし

## 2018 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>① 変動する室内騒音がある中、道路騒音や交通騒音の評価においては、各種文献の読み合せ、小委員会における討論の結果、聴感実験の方法が大きく影響されることが確認されたため、慎重に検討を重ねることとした。</p> <p>② 「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」を AIJ-ES に移行するための音環境運営委員会からの諮問事項である鉄道騒音の測定・評価法として、時間重み特性 S の最大 A 特性音圧レベルから単発騒音暴露レベルを算出し、この値から等価騒音レベルを算出することの有用性を確認してきた。今期は、新幹線、在来線から発生する騒音を統一的に評価できるかどうかを確認するために、新幹線単独、新幹線と在来線（貨物含む）、在来線（貨物含む）を対象にデータの収集、聴感実験用音源の収録を行った。データ分析の結果、いずれの場合も LASmax から単発騒音暴露レベルを算出し、この値から等価騒音レベルを算出することの有用性が確認された。また、暗騒音レベルの平均値と LASmax の値の差が、等価騒音レベルの値に及ぼす影響についても検討した。</p> <p>③ 本小委員会のこれまでの知見に基づき、2019 年度大会のオーガナイズドセッションの環境工学部門・音環境のオーガナイザーとして、セッション名と主旨を作成した。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。